

地球は面白い

イギリスでアンティークのお買い物といえばロンドンのポトベロー通りが有名である。

しかし、この通称「骨董(こつこう)通り」は、映画『ノックアウト』の恋人』の大ヒット以来、週末の混雑はなほだしく、どきどきを紛れのガラタも法外な値段で売られていたりして、よほどの目利きでなければ得るのは成果よりも疲労のほうが多い。

イギリスのアンティークの底力を知るために向かうべき目的地は、サフォーク州の小さな村である。その名はロンゲメルフォード。

現地住民がイギリスで最も「ロンゲ」であるとするメインストリートの両側には、ずらり

中野 香織

イギリス・ロンゲメルフォード

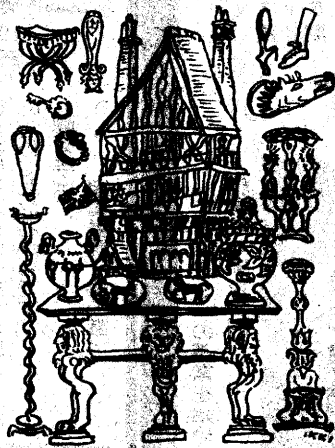
と立ち並ぶアンティーク・ショップ、およそ三十七軒。客をだましてもドロンと消えられる蚤(のみ)の市ではなく、れっきと構えた店であるから、ひどいインチキをつかまされる危険は少ない。複製にはあらかじめその旨断り書きがしてある。

時代には羊毛や織物の取引で栄えた村なので、建物の多くが中世のハーフ・ティンバー(木骨造り)建築である。そんな建物に何十年何百年の時を経てきた家具や時計や食器やアクセサリーが、ていねいに磨きあげられ並べられているのだ。一九八六年にはアンティークのディーラーを主人公にした連続テレビドラマ『ラブジョイ』も撮影されている。それほどアンティークが当たりとほまる村なのである。

ある家具店で見事な彫刻が施された十九世紀のテーブルを見た。日本では食卓を飾るはすだったが、銀器というのは毎日磨きあげてくれる執事がいてこそはじめて意味を持つ、という厳しい真実を知られることになった。すばりな持ち主のものでは黒くくすんでいくばかり。アンティークを買ったときには、それが経てきた時空に思いをはせるだけでなく、これから過すであろう時空にまで思いをめぐらさなければならぬのであった。(服飾史家)

アンティークが似合う

一九二〇年代の銀のコショウびんに一目惚れ



イラスト・下田 一貴